

私たちワンボイスは

ワンボイスは、聖書を読む家庭集会から始まったクリスチャンの団体です。

そこを母体に2022年頃から様々な社会問題に目を向け祈るようになり、互いに学び合いながら、神様の愛と希望を届けるためのセミナー・コンサートを企画して活動を行っています。

主な活動 — 三つの「いのち」を柱に —

- ①いのちから考える社会問題
- ②いのち歌うコンサート
- ③聖書が語る永遠のいのち

参加者の声

今はキリスト教に関しては何もわかりませんが、人間として大事な何かを学べると思い来ました。



力強くわかりやすいメッセージに感動しました。「神の子」のアイデンティティを握って主に従って行きます。

ワクチン後遺症からの完全復活は、外的な対処のみならず、信仰の強さの大切さを感じました。



皆が受け身でなく一体となって主を賛美し、心から神様に向かう空間。とても特別な一日でした！

メンバー紹介



代表 松木真紀

渉外担当をしています。これから多くの方々とながり、皆さんと祈り合い、支え合いながら、希望を灯し続けていけたらと願っています。

Kayoko

主に賛美(ソロ/チーム)をしています。賛美をする中で、預言、癒し、祈り、一致、また打ち破りが与えられます。



Tomoko

神様から流れてくる喜びを皆さんと分かち合いたい!!と毎回ドキドキ、ワクワクしながら司会を担当しております。



Masako

イエス・キリストを信じ、コロナワクチン後遺症から奇跡的に回復した証をしています!様々な病に苦しんでおられる方と対話し、セミナーではスライド制作やSNSなど、メディアを担当しています。



『光は闇の中に輝いている。
闇はこれに打ち勝たなかった。』
(ヨハネの福音書1章5節)



OneVoice



ワンボイス

お問い合わせ先

onevoice6615@gmail.com

LINE公式



社会問題を考えて祈り
世の光として神の愛と希望を届けます

いのちから考える社会問題

様々な分野（政治家・医師・牧師・活動家等）の講師をお招きして問題について知り、互いに繋がり、交流を深めます。

私たちのいのちは
神様からいただいた尊いものです

いのちって、なんだろう？

生きているということは、あたりまえのようで、奇跡のようなこと。

日常の中の喜び、小さな幸せ、誰かを大切に思う気持ち。一人ひとりが、かけがえのない存在なのです。



いのちが脅かされる社会

私たちの身近なところで様々な問題が起こっています。「私たちの食は安全なの？」「各種ワケチンは本当に信頼できるの？」「メディアは真実を報道しているの？」

「いのち」が脅かされている現実があります。



私たちにできること

小さな一歩が、いのちを守る力になります。社会問題を知って学ぶことです。声をあげて行動することが、いのちを守る大きな力になります。



いのちを大切にする社会を皆様で考えましょう！



いのち歌う

闇が深まる世の中に、希望の光を届けるべく「いのち」の輝きを歌います。



Kayoko クリスチャンシンガー / ソングライター

札幌出身、クリスチャン家庭に生まれ、賛美歌やクラシック音楽に親しむ中で母にピアノを教わり、高校生の頃から教会の聖歌隊に入りオルガンを弾き始める。学生時代には軽音楽サークルにてバンド活動（ヴォーカル）に目覚め、卒業後「ゴスペルミュージック・ジャンボリー」出演をきっかけに「タンバリンズ」としてチャペルコンサートをするようになる。PBAライブ・ラインのつとめin北海道のゲスト（タンバリンズとして）で巡回公演した後、東北被災地支援の立ち上げと運営に参画、被災地でも歌う。現在は聖歌隊指導をしながら表現活動を再開。

公式HP



Instagram



参加者の声

空のように澄み渡るお声で美しい歌声、水のように清らかな発声力が素晴らしいです。曲の背景や作詞・作曲の想いと意味を教えてください興味深かったです。

澄んだ歌声に心が癒されました。ありがとうございました。

心あられるような歌声とピアノでした。
とても良い時間を過ごさせていただきました。

自然に涙が流れて、心に爽やかな風、生きる元気をいただきました。

永遠のいのち

日本各地から講師（牧師、伝道師等）をお招きしてメッセージを聞き、ワンボイス賛美チーム（レビワン）のリードで声を合わせ神様を賛美する時を持ちます。

聖書は

神さまからのラブレターです。

聖書の神さまは、

私たちに「永遠のいのち」を

受け取って欲しいと願っておられます。

「永遠のいのち」を受け取る方法は・・・

～ イエス・キリストを知ることです ～

「永遠のいのちとは、
唯一のまことの神であるあなたと
あなたが造られた
イエス・キリストを知ることです。」

（ヨハネの福音書17章3節）

